

# 空き家と まちの つながり



調布市



調布市  
空き家  
エリアリノベーション  
事業

## 調布市空き家エリアリノベーション2022-2023

### CONTENTS — コンテンツを一部紹介!

- 空き家を活用できる未来、つくり続けます!
- みんなで育てた「居場所」の軌跡
- 富士見BASE、期間終了。成果と課題は?
- 飛田給で新たなコミュニティスペース、始めます



2023年7月1日(土)  
**飛田給コミュニティスペース(仮)  
オープン!**

調布市の新たな取り組み、  
空き家等リノベーション促進事業が2023年スタート  
“地域の活動拠点”としての空き家の活用を  
サポートします!

「東京都エリアリノベーション推進支援事業」採択事業

発行：調布市  
発行日：2023年3月31日

お問い合わせ：調布市都市整備部住宅課 空き家施策担当  
〒182-8511 東京都調布市小島町2丁目35番地1  
Tel.042-481-7817 メール:akiya@city.chofu.tg.jp

編集・制作：小西威史(パノラ編集処)  
デザイン：園 健次郎(サラスメント)

3年事業の最終年度となった令和4年(2022年)度は、空き家利活用事業者を中心に空き家のオーナーさんや地域の皆様のご協力により、まちづくりプロデューサーのお2人が事業開始当初に掲げたエリアビジョンの実践をすることができました。

空き家を「地域の資源」として活用することにより、単なる空き家の解消に留まらず、新たな人との結びつきに繋がったことが、約10か月の富士見BASEの運営を通して得ることができた大きな成果だと思えます。

しかし一方で、得られた課題も多くあります。今後は、富士見BASEでの学びを活かしながら、みんぐるりんごさん、ペブルスさんを中心に飛田給で新たな展開を進めていきます。地域の皆さんや空

き家の活用に興味のある方にぜひお越しいただき、どのように空き家を活用していくか、アイデアを出し合いながら皆さんが主体となって運営していく場所となるよう、市もサポートしていきます。

今後市では、この事業で得た知見を活かし、令和5年度から「調布市空き家等リノベーション促進事業」を始めます。富士見BASEに続く空き家を活用した地域の活動拠点を市内全域に展開していけるよう、改修費の助成など利活用事業者を支援しながら事業を進めて参ります。

富士見BASEのような空き家を有効に活用した事例を広く発信し、空き家のイメージがポジティブなものになるよう、今後も更なる空き家施策に取り組んで参ります。

(調布市都市整備部住宅課空き家施策担当)

富士見BASEで得たことを、  
次に活かしていきます



富士見BASEを運営してきた事業者の皆さんとまちづくりプロデューサー。富士見BASEの看板は下ろしたが、ここで得たことを飛田給をはじめ、市内全域で始まる空き家活用に活かしていく。

### 編集後記

空き家を活用したまちづくりの取材を3年間、担当させていただきました。3年目に富士見BASEができ、関わった方や集まる皆さんからお話を聞いて改めて感じたのは、多くの方がコミュニティの場や社会的な活動にチャレンジできる場を地域の中に求めている、ということでした。

子育て世代ならば、育児に関する不安ごとを相談できる場、ほかにもご近所同士で世間話できる場、子どもたちが遊んだり、勉強を教え合えるような場、働いている方が本業以外の副業や、社会や未来に貢献する活動に取り組めるような場が求められていました。

そんな場所を実際につくることはなかなか難しいのですが、それを「空き家」を使って実現しようというわけです。空き家が解消され、まちに活気が生まれ、人と人のつながりが生まれるという、一石二鳥以上の取り組みです。

また、今回は「市報ちょうふ」の力を実感しました。みんぐるりんごさんもペブルスさんも、富士見BASEの事業者募集は「市報ちょうふ」の告知記事で知ったそうです。よりよい未来を自分たちでつくりたいと、アンテナを張っている方は大勢います。これから始まる飛田給の空き家活用でも、「すごい」方がたくさん集まりそうです。(パノラ編集処・小西)



これからも空き家を活用したまちづくりを推進。  
みなさまのご参加、お待ちしています!

# 地域で空き家を活用できる未来、 みなさんとつくり続けます！

近い将来、調布市でも人口減少が始まり、空き家が増えていきます。その空き家を地域の「資源」と捉え、地域の人が交流でき、つながりが生まれるような場所にしていくプロジェクトが2020年度から始まりました。それが調布市空き家エリアリノベーション事業「まちの『つながり』プロジェクト」です。

このプロジェクトは3か年かけて行われました。共立女子大学教授の高橋大輔さん、建築家で「FUMI LOUNGE」の運営者でもある菅原大輔さんをまちづくりプロデューサーとして調布市が任命し、プロジェクトをリードしていただきました。

それぞれのプロデューサーが大切にしたいキーワードは、「ソーシャル・インクルージョン」と「小商い」です。ソーシャル・インクルージョンとは「社会的包摂」という意味で、社会的に弱い立場にある人も含め、誰もが社会の一員として受け入れられ、健康的に文化的に暮らせる社会のことです。

小商いとは、小さな元手で一人でもできるような商売、事業を指します。

プロジェクトが目指すのは、その空き家が地域の人たちの「居場所」となり、多世代の交流が生まれ、そして、その場所がいつまでも続いていくことです。ただ、続けていくためには家賃や光熱費、人件費などの運営費も必要となります。理念の実現と課題解決のために出されたのが、2つのキーワードなのです。

## プロジェクトの成果と 新たなスタート

プロジェクトの期間中、コロナ禍で制約も受けましたが、2022年6月富士見町一丁目の空き家を使った「富士見BASE」を23年3月までの期間限定でオープンしました。そこで改めて見えてきたのは人的、資金的に継続できる場所をつくることの難しさです。一方で、地域の人たちは気軽に人と会い、相談ごとでもできるような場所を求めていることがわかりました。

プロジェクトは2022年度で終了しましたが、その成果をふまえ、調布市は2023年度から新たに空き家等リノベーション促進事業を始めました。地域のために空き家を活用したい市民の皆さんをサポートします。この冊子ではプロジェクトの3年間を振り返り、未来に向けた取り組みを紹介します。

富士見町を舞台に  
空き家活用の実証実験を  
行いました！

調布市  
空き家  
エリアリノベーション  
事業

2022  
FINISH



2021

2020

地域のために  
空き家を活用したい  
みなさんをサポート！

調布市  
空き家等  
リノベーション  
促進事業

2023  
START

